



洗心

村山市立袖崎小学校
学校だより
No.12

令和8年10月9日発行

挑戦し、やり抜くマラソン記録会 ～10/7～

そもそもマラソンは、自ら意図的に心拍数を上げ、苦しい状況をつくるスポーツです。明確な目的意識がないと自分から続けていくことが難しい運動とされています。つまり「何のために走るか？」がはっきりとしていないと、自分の意志でマラソンをすることがないと言えます。「目標をたてて、それをクリアすること」をマラソンのモチベーションにすることが多いのは、上記の要素があるためではないでしょうか。



本校で言えば、「走ることで『挑戦し、やり抜く』自分になる」ことが、「何のために走るのか？」の答えになっていると思います。それは、子どもたちの姿から伝わってきます。走るのが得意な子も苦手な子も自分の目標に向かって、練習から「挑戦し、やり抜く」ことを繰り返し、

積み重ねました。友達に勝つことではなく、「自己ベストに挑戦できた。」や「自分は走り切れるんだ。」という、できた自己肯定感を得る姿が見られました。マラソンという活動を通して子どもたちは挑戦し、やり抜き、その先に自分自身のウェルビーイングを得たと言えると思います。

おうちの方や地域の方々がたくさん応援に来てくださいました。本当にありがとうございました。



全校芋煮会

マラソン記録会の後に、晴天の中全校で芋煮会を実施しました。3時間目に高学年が家庭科室で食材を切り、4時間目に全校生が4つの班に分かれ、火おこしから調理まで、みんなで協力して芋煮を作りました。同じ材料を使っているのに、4つの班の味がそれぞれ違っていったことや、何杯もおかわりをしてお腹いっぱいになったことなど、さわやかな秋の日がいい思い出がたくさんできました。「めちゃくちゃ、おいしい！」という子どもたちの言葉がとても印象的でした。

